短歌　闘いの日々

筑紫次郎

一酸化中毒患者に配られる補償打ち切りの冷たき書状
病いいえぬ身に仂けと血も涙もなき一片の通告書を読む
国会の決議無視せるこの暴挙許すべからず燃え立つ怒り
無表情に立つ役員は黙り居て昂ぶる友の声のみ響く
交渉の模様は見えず夜の迫る本社の廊下人あふれたり
幼な児を膝に寝かせて若き主婦経過を待てり夜寒に耐えて
気の毒なほどにやつれし患者まで遅き抗議の列に加わる
通告書突き返し終え労仂歌うたえば秋の陽射しまばゆし
菊の花咲き初めたり爆発後三年を経ぬ闘わんのみ

職場短信

▼自分の室で用便しろ

「拝啓社長殿。私は阪急電鉄の社員でありますが、勤務する場所に便所もなく、また水道のない所さえあるのをご存じですか。わが大阪急では公衆衛生法、軽犯罪法に〝クソ食らえ〟と良識ある社員に教育していますね。『勤務についたら大便をしないよう、したくなったら新聞紙を敷いてやれ。小便はそのへんにしなさい』世界中どこの人間が自分のへやで紙の上に用足しするものがいるでしょうか。列車の通過と通行人を気にしながらクソをたれている…これが踏み切りに勤務する私たちの現状です」（私鉄新聞「京阪神版」より）

膝つき合せ語り合い

中国婦人代表迎え　三川で国際交流

十二日の夜の三川支部の集会所は、かねてに似合わずパッと明るい雰囲気につつまれていた。はるばる三池をたずねてやってきてくれた中華人民共和国の婦人代表（七人）を輪のなかにかこんで、主婦会の会員たちとの美しい交流が行なわれていたからだった。

主婦会の人々は、会場で三つのグループに分かれ、代表の一人、二人と膝すり合わせながら語り合った。

一つのグループでは、労仂災害のことが問題になった。CO患者の家族の一人―後藤守さんの奥さんが、文字でない文字で懸命に書きこまれた自分の夫の日記を代表にさし示しながら、「私たちには全然読めないこの日記を書いた主人は、もともとうまい字を書くことができました。あの爆発から三年たったいま、まだ幼稚園にゆく子ども以下です」と実状を訴えると、資本への怒りを秘めながら真剣に聞く代表たちだった。

そして、代表の一人―徐学海さんは語った――。

「わが中国でも油田が爆発したことがあります。もちろん負傷する人が出ました。ですけど、三池の会社のように、急がなければならない救援隊を、六時間もたってからはじめて坑内に送りこむようなことはありませんでした。負傷者の治療のためには、国家がサッと有力な医師を飛行機で送ってくれましたし、爆発後の火事は、みんなが先を争って消しにかけつけました。ケガをした一人の労仂者の奥さんは、人から早くご主人のところにかけつけなさいとすすめられたのに、いま主人の方はきっと仲間の人々が見てくれます。それより一時も早くと、消化作業に参加していったほどです。それというのも、私の国では国家の利益と人民の利益が一致しているからできることで、人間を品物以下に取り扱う資本主義の社会と、人間を何より大切にする社会主義の違いがハッキリしています。

私の国が人間をどんなに大切にしてくれるかは、ここに一緒にすわっています巳桑さんの例が一番です。巳さんは九才から十八才まで地主の家のドレイでしたが、革命のとき解放され、いまチベット自治区のある県の副県長さんをしています」

徐学海さんの具体的な社会主義国の話しに主婦会の人々も釘づけにされたように交流はつきなかった。

たった一日――それもわずか二時間ばかりの交流での別れはつらかった。主婦たちと代表は、時間がきてもいつまでも座を立つことができず、代表たちも「こんどたずねるときは、必らず皆さんのおうちに泊らせていただいて、十分交流し合うことをお誓いします。どうか闘ってください」と約束することがせいいっぱいだった。

〝人間を大切にするのが社会主義です〟と語る中国婦人代表

息子は偉かった

―大南高の創作劇〝三池の子〟を観て―

宮浦　上村一子

大牟田南高校演劇部でクラブ活動をしている息子の創作劇〝三池の子〟が、県大会に出場したので観に行きました。かねて私は、息子に口ぐせのように「芝居なんかやめて勉強ばせんね」、と叱っていたことをまず反省した。

さきに機関紙〝みいけ〟で紹介されたように、CO患者とその家族を、これほどまでの苦しみにつき落した根源の問題を正しくつかみ、三池の子の劇として大衆に訴える仂きには感服しました。当然なすべき私たちの方が、遅れていることを恥じた。

まえから、息子は「第一組合のお父さんを小説に書きたい」などといっていたのですが、昨年大南高校に演劇部が誕生してから、三川鉱災害の問題をとり上げたいとつぶやいていた。そしていよいよ労組の協力で、取材を兼ねて各病院に見舞に行ったこの息子たちは非常に憤激していた。

この演劇サークルには第二組合員の子女も幾人かいるけれども、真実を追及する若者の目には一点のくもりもない。立派なグループで、とても仲良しである。私は脚本のことやとか、演出ならびに演技その他よくわからないが、自分の目で見、肌で感じたその劇を観ながら、私は終始ハンカチを離すことができなかった。

審査発表の時、いろいろと問題点を多く注意を受けたそうだが、その中で、ある人から「三川鉱と他の二つの山が、坑道でつながっているということは、あなたたちの劇ではじめて知りました」といわれた時、三日もかかって考え出したその言葉がいっそういきてきたのを知り、嬉しく思ったと話していた。

学校の成績はビリでも「演出家になりたい」という息子の夢を笑っていた私も、三池の子を観て考えなおした。

十七日労仂会館で再び市内発表するそうですが、その日は劇が終ったら、小豆ご飯でも炊いて一同を招待しようと思っている。

× ×

感動の投稿を寄せていただきましたが、どうか職場から家庭から、苦しいなかであればあるほどいっそう感動したこのような経験を、どしどしお寄せください。みんなで、豊かで、力強く、誇りに満ちた〝みいけ〟をそだてましょう！

夫へ一言

帰りが遅い

主人は組合や社青同のことで、一週間に一度位、家族そろって食事する位で、ほとんど毎日帰りが遅くなります。それに対して、文句もいわない私に、近所の奥さんは「ご主人の活動によく協力しますね」といわれますが、私は協力というより〝あきらめ〟になっているような気がします。

結婚して四年、最初は文句もでていましたが、私も分会の班長などして、いろんな会議でみなさんと話したり、学習する中で、現状ではお互にみんなが忙がしいのだと思うようになりました。

朝出勤のとき、一日の予定を聞いて、それに私も合わせるようにしています。ただ会議以外に一パイのんだりして遅く帰ると文句をいいます。

せめて日曜ぐらい

とはいっても、普通遅く帰るのはやむをえないとしても、せめて日曜ぐらい家庭にいて、子どもをみてほしいと思う。それをいうと主人は「男がジッとしてなにもしないのはつまらん。会議も日曜の方がゆっくり落ち着いて話し合えるから」といわれると、それ以上文句をいえなくなります。

先日、私がカゼで寝こんでしまいました。そのときは、一日中子どもと動物園などで遊んできて、子どもは大よろこびでした。以前は、私の病気より活動の方が忙がしいといってでていたのに、少し変ったのだと思います。

もつと話し合う時間を

毎日遅く帰ってつかれているのだと思いますが、家でこちらから聞かないかぎり、職場のことなどちっとも話してくれません。

外ではいろんな話しをして、婦人も同等なのだとか民主的にとかいっているのでしょうけれど、家に帰ると全くのワンマンではないけれど、やはり亭主関白になっていますから矛盾を感じます。

しかし私自身も、結婚前は運動に全然関心がなかったのに、主人との生活の中で、いろんなことが判り、もっと勉強しなければと思うようになりました。

組合運動と家庭 ⑭

活動に合わせた生活

宮浦・月見ケ丘分会

小柳敦子さん（29才）

オルグに手紙を出そう

三池労組は年末年始対策として年末の助け合いカンパと、各地域毎にとり組む新年団結集会を例年通り決めたが、今年はいままで交流したオルグに、CO問題を中心とした私たちのたたかいを拡げる年賀状をだす運動を積極的にとり組むことになった。

奥様メモ

○…追いかけられるようなあわただしさで、ことしもおわろうとしています。清掃や買い物のプランをしっかりたてて、むだのないように早目にさばき、大みそかには一年の暮らしをふりかえるゆとりをもちましょう。二十二日は冬至。夜は一番長く、寒さはきびしくなります。

○…野菜類は二十日ごろまでに買いおわり、晴れた日を選らんでススはらいを兼ねて天井、壁、雨戸のサンやよろい戸、電灯線など、日ごろ手のとどかなかったところの清掃をすませましょう。台所用品などで不用なものは思いきり整理し、使いよく、仂きやすいように置きかえ、気分を一新させましょう。

年末のくらしと栄養

○…忙しいうえに寒い年の暮れの食事は、栄養に気をくばること。とくにからだに抵抗力をつけるビタミンAや、かぜをひかないためのビタミンC補給にご注意を。レバーのつくだ煮をつくっておくと便利です。二センチ角に切り熱湯にさっと通して、みじん切りのショウガとしょう油五さとう一、酒一の割り合いで煮つめます。ビタミンC一日の必要量は小さいミカン二個です。冬の一家だんらんや、来客のごちそうにおでんを煮ながら食べたり、なべ物はもってこい。おでん材料のしきりに弁当箱をなべに沈めて使うと便利です。若い人には淡白な湯豆腐でなく、とり肉、シイタケ、玉ネギなどで五目あんかけ豆腐にしてみては。

これだけはやりぬくぞ

高椋竜生

天ばんから
雨がポタポタ落ちる

わざと
こんなところへ
くりこみやがる
雨がなんだ
差別がなんだ

そっちが　そっちなら
こっちも　こっちだ

やるだけやるだけだ
まっすぐに
まっすぐに生きるのだ
じゃまものがはいったら
そいつをのり越すんだ

天ばんから
滝のように雨が落ちて
きても
くじけるもんか
なにがなんでも
これだけはやりぬくぞ

人として生きる道だけは
子どものために
開けるのだ